

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：22702

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K21659

研究課題名（和文）精神科医療機関におけるピアスタッフの実態と効果的な活用の可能性

研究課題名（英文）Actual situation and possibility of effective utilization of peer-support staff in psychiatric medical institutions

研究代表者

種田 綾乃 (Taneda, Ayano)

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・助教

研究者番号：70643261

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：精神科医療機関の精神科デイケアにおける利用者を対象として、無記名自記式質問紙調査を実施し、利用者の視点から精神科医療機関でのピアスタッフとの関わりの実態やピアスタッフの意義や期待等が明らかになった。また、複数の精神科医療機関で働くピアスタッフ・ピアサポーターを対象としたグループインタビュー調査を複数回実施し、その分析結果から、医療機関で働くピアスタッフのもつ価値観や現実的に働く上での苦悩や障壁等が明らかになった。これらの知見をふまえ、一地域における地域精神保健医療福祉システムの中でのピアスタッフ・ピアサポーターの養成や活用に向けたシステムづくりに関与し、実装に向けた素地を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、利用者の視点とピアスタッフの視点の双方から、精神科医療機関におけるピアスタッフの意義や価値が言語化された。また、その価値や強みを発揮していくための業務上の制約やシステムとしての課題等も明らかになり、今後、精神科医療機関での活用を考える上での知見を提供するものでもある。加えて、本研究のグループインタビュー自体がピアスタッフ同士のピアサポートの場としても機能していたことも確認された。また、本研究は、調査の企画から実施・分析に至るまで、ピアスタッフ経験をもつ研究協力者らと共に調査に参画した点にも特徴があり、当事者との協働による研究のあり方の可能性を広げる点でも意義あるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：From the anonymous self-administered questionnaire survey for psychiatric day care users, the users' actual situations of the relationship with peer-support staffs at psychiatric medical institutions and the users' significance and expectations of peer-support staffs were clarified. In addition, from the multiple group-interview surveys of peer-support staffs working at psychiatric institutions, their values and barriers to working realistically became clear. Based on these research findings, by being involved in the development of a system for training and utilization of peer-support staffs in the regional mental health system of one region, the foundation for the implementation of research results was constructed.

研究分野：社会精神保健学

キーワード：ピアサポート ピアスタッフ ピアサポーター

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、我が国の地域精神保健医療福祉サービスの様々な現場において、ピアスタッフやピアサポーター(精神障がいや疾患の経験、サービスを受けた経験、リカバリーの途を歩んでいる経験等を活かして、利用者のリカバリーに寄与する者)の活躍・活用の場が広がりにつつある。精神障害者地域移行・地域定着事業の一環として、あるいは、精神障害者アウトリーチ事業や就労支援、リカバリー志向に基づいた共同意思決定の支援・研究等の様々な支援活動や研究事業を通して、ピアサポートのもつ力と可能性が注目されつつある。平成12年には、厚生労働省により精神障害者の雇用促進を目的とするピアサポート体制奨励金制度が創設されるなどの流れを受け、地域における障害者福祉サービス事業所等を中心として、ピアスタッフとしての雇用の機会も広がりにつつあり、ピアスタッフ・ピアサポーターのネットワーク化や専門性の向上に向けた研修の整備等の動きも高まりを見せている。

しかしながら、我が国では、精神科医療機関におけるピアスタッフの雇用はまだ始まったばかりであり、その役割や専門性に関しても、ピアスタッフ・医療機関の双方ともに模索の中にある。近年、福祉関連の事業所をフィールドとして、ピアスタッフの実態調査や効果検証などの研究が徐々に始まりつつあるものの、精神科医療機関のピアスタッフに関しては、未だ実態も明らかになっていない。そのため、医療機関に雇用されるピアスタッフのネットワークなどは孤立しがちであり、ピアスタッフ・ピアサポーターがそのピアとしての専門性を十分に発揮できずにいる状況や、雇用側としても模索の中で雇用をしている実態などもみられる。

2. 研究の目的

本研究の主な目的は、我が国における精神科医療機関で働くピアスタッフ・ピアサポーターの実情・実態を明らかにし、その効果的な活用の可能性や、ピアスタッフ・ピアサポーターの専門性を明らかにすることである。また、研究活動を通じて、精神科医療機関におけるピアスタッフ・ピアサポーターのつながりづくりを進めることも副次的な効果として目的とした。さらには、本研究は、自らの精神科医療機関でのピアスタッフとしての経験のある研究協力者らとの協働のもとに実施するという特徴もあることから、当事性の高い研究者との協働・参加による研究の可能性を探ることも目的の一つとしている。

3. 研究の方法

調査研究としては、首都圏の一精神科医療機関(国立精神・神経医療研究センター)の精神科デイケアにおける利用者調査(調査1)と、複数の精神科医療機関で働くピアスタッフ・ピアサポーターに対するグループインタビュー調査(調査2)を行った。

利用者調査(調査1)では、一定期間(2016年7月の1か月間)に精神科デイケアを利用した全利用者(76名)を対象として、無記名自記式の質問紙を配布した。質問項目としては、基本属性やデイケアの利用状況・満足度、自身の精神疾患に対する思い、ピアサポート活動やピアスタッフとの関わりの状況(同じ障害をもつ人からの影響、ピアスタッフと出会ってからの変化、ピアスタッフと他の専門職との違い、ピアスタッフの支援への期待)やピアサポート活動・ピアスタッフの支援に対する満足度等である。調査票の企画や配布・回収、および分析や公表に至るまで、該当機関のデイケアのピアスタッフ複数名との協働のもとに実施した。

ピアスタッフ・ピアサポーターに対する調査(調査)では、2017年度~2019年度にわたり、複数回のグループインタビューを実施し、質的・量的データの収集を行った。首都圏におけるピアサポートに関連する団体の代表者や関係者とのつながりのある大学教員等を通じ、グループインタビューへの参加案内のチラシを配布し、精神科医療機関(病院、クリニック等)においてピアスタッフあるいは有償のピアサポーターとして働く者(勤務内容としては対人援助に関する仕事を主としていること)を条件として協力者を募集した。4名程度の小グループにてグループインタビューを実施し、1日目は、「お互いを知る」ことをテーマにした自分自身の精神疾患・障害に関する経験の語りや、「ピアスタッフだからこそできること」をテーマとした語りを、2日目は、「精神科医療機関のピアスタッフだからこそできること」をグループとしての話し合いのゴールとして設定し、自由な語りを促した。当時のグループのファシリテートは、自らも精神科医療機関におけるピアスタッフ経験のある研究協力者と研究代表者の両者により行い、収集データの分析も研究協力者との協働により行った。

さらに、これらの調査結果等で得られた知見や、研究代表者が携わっている他の研究プロジェクト(地域の障害者福祉関連事業所等におけるピアスタッフに関する研究班、障害者ピアサポートの専門性を高める研修に関する研究班)との連携のもと、本研究にも関連する調査データの分析を行った。また、これらの調査研究での知見をふまえ、研究最終年度の2019年度には、首都圏の一地域における地域精神保健医療福祉システムの中でのピアスタッフ・ピアサポーターの養成や活用に向けたシステムづくりに関与した。具体的には、精神科医療機関等の職員に向けた研修の実施(研究協力者のピアスタッフと共に実施)や、精神科医療機関等への定期的な訪問を行っているピアスタッフ・ピアサポーターに対するグループスーパービジョンの実施、ピアスタッフ・ピアサポーターの養成等に関わる事業所(基幹相談支援センター)における職員へのコンサルテーション等を行った。

4. 研究成果

調査1：首都圏の一精神科医療機関（国立精神・神経医療研究センター）の精神科デイケアにおける利用者調査

精神科デイケアの利用者40名（回収率52.6%）より調査票の回収があり、研究協力者のピアスタッフ3名との協働による量的・質的データの分析から、利用者の視点からの精神科医療機関でのピアスタッフの意義や期待等が明らかになった。

調査協力者の9割以上がピアスタッフの存在を知っていると答え、デイケア内での集団プログラム内での紹介（50%）やピアスタッフ自身からの紹介（15.6%）、他スタッフからの紹介（15.6%）などにより、ピアスタッフの存在を認識するに至っていることが明らかになった。また、ピアスタッフとの関わりによる変化としては、【障害という共通経験の共感を通じたエンパワメント】【働く者としてのモデル】【生き方や価値観の変化】【治療に対する前向きな姿勢】【生活上の知識・技術の伝授】【コミュニケーションの円滑化】などの様々な面でプラスの効果を感じていることが明らかになった。他のスタッフとピアスタッフとの違いとしては、【親しみやすさ】【対等な視線】【病や苦勞の経験を持つこと】などから、【情緒的なサポートに優れていること】【ピアの経験が自分に活用できること】などの声が見られた。一方、【特に違いはない】との回答や【仕事上の待遇の違い】を感じる（給料面、雇用の安定性等）との声も確認された。ピアスタッフとどのような話をしたいか、ということに関しては、【病気に関するエピソード】が最も多く、次いで【日常生活に関する雑談】【症状に関する対処方法】【仕事・就労に関すること】なども挙げられた。利用者がピアスタッフに望むこととしては、【困っている時のサポーター】【身近な話相手】【同じような経験をもつアドバイザー】【病気・症状についての相談相手】などの立場を望む声が多く見られた。

調査結果から、精神科医療機関におけるピアスタッフに対しては、苦勞や症状に関するエピソードや対処法などの、障害の経験にもとづいた相談ニーズがみられるとともに、日常生活に関することや仕事のこと、これからのことといった、一生活者としてのより身近な話し相手としての役割が期待されていることも推察された。そのため、ピアスタッフによる個別的な支援の機会をつくっていくことや、精神科医療機関におけるピアスタッフによる関わり方としては、疾患のみでなく生活者としての経験の共有がより重要となってくることが示唆された。

調査2：精神科医療機関で働くピアスタッフ・ピアサポーターに対するグループインタビュー調査

2017年度～2018年度に実施した計8名のグループインタビュー調査データに関して、ピアスタッフ経験のある研究協力者との分析を行った。精神科医療機関で働くピアスタッフの視点として、189のコードから、55の小カテゴリ、18の中カテゴリが生成され、《ピアスタッフのもつ多様な側面・アイデンティティ》、《ピアスタッフの価値観》、《医療だからこそできること》の大カテゴリに関する内容が整理された。

調査結果から、医療機関で働くピアスタッフ・ピアサポーターは、支援者・患者・生活者など多様な「役割」を持ちながら働いており、専門職側も多様な役割を期待する状況もあること、その複雑性の中で苦悩するピアスタッフ・ピアサポーターの存在も確認された。そうした複雑さの中でピアスタッフ・ピアサポーターが大切にしている視点としては、いわゆる「常識」や「社会通念」や専門職のとらえる利用者の尊厳の保障（命をいかに守るかなど安心・安全の保証）を超えた部分にあり、より当事者主体・当事者の視点に基づいた尊厳の保証を見出していた。また、支援上の立場性としては、当事者性を前面に出すことに希望を持つ者や、当事者性を前面に出したサービスへの価値を疑問視する立場の者もあり、ピアスタッフ・ピアサポーター自身の価値観や立場性も多様であり、両価的な思いの中で揺れ動いている状況等も確認された。また、「多様性を専門性とする」ということを大切に、一つの正解（モデル）を作ることへの抵抗なども確認された。

ピアスタッフ・ピアサポーターとして医療機関で働く上での難しさに関する語りも確認された。ピアスタッフ・ピアサポーターは、同僚（専門職）との対等性の保持に難しさを感じていることも確認され、賃金や雇用形態上の差異も大きく、ヒエラルキー化しやすい医療現場の中で、対等性の保持は大きな課題の一つであることが確認された。

さらに、医療機関という管理されたシステムの中で、ピアスタッフ・ピアサポーターの価値観が機能するための組織としての工夫の必要性やピアスタッフ・ピアサポーター自身のバランスの取り方等に関する知見が得られた。ピアスタッフ・ピアサポーターの強みを活用できるような、利用者との個別・多様なかわりかかわりができないなど、業務上による制約からその強みが発揮されづらい状況も確認された。ピアスタッフ・ピアサポーターと職場の専門職の双方が相互理解を促す場や研修システム、さらには組織やチーム作りとして、お互いが人として本音を語り合える場の設定等の必要性なども推察された。

なお、本調査を通じ、研究協力者より「この研究の話し合いの交流にも、価値があるように思える」という声も確認され、調査がつかないピアスタッフ・ピアサポーター同士のピアサポートの場の価値も見出された。本研究において、ピアスタッフ経験をもち研究協力者と共に調査を企画したことによる研究成果の一つでもあるとも考える。また、研究データの分析においても、ピアスタッフ経験のある研究協力者との協働により、発言の真意や価値に対する洞察が深まった部分も大きく、本研究にとっての成果でもあると考える。

さらに、本研究における知見等をふまえ、本研究の最終年度においては、複数の精神科医療機関をもつ首都圏の一地域において、精神科医療機関や保健所、地域の障害福祉事業所等との連携のもと、地域でのピアスタッフ・ピアサポーターの活用に向けたシステムづくりに向けた基盤の構築を行った。

精神科医療機関等の職員に向けたピアサポーターに関する普及啓発の研修を保健所や相談支援事業所、本研究の研究協力者のピアスタッフとともに企画実施し、複数の精神科医療機関をはじめ、訪問看護事業所や相談支援事業所、行政職員等の33名の関係機関のスタッフの参加があった。研修実施後に行ったアンケートでは、回答者の81%が「ピアサポーターの役割や可能性について理解できた・よく理解できた」と答え、回答者の87%が「ぜひ活用したい・活用を検討したい」と答えた。

本研修を契機に、当地域においてピアスタッフ・ピアサポーターの養成等に関わる事業所(基幹相談支援センター)における職員へのコンサルテーション等を複数回実施し、精神科医療機関等への定期的な訪問や体験発表等を行っているピアスタッフ・ピアサポーターに対するグループスーパービジョンに複数回関与することにもつながった。精神科医療におけるピアスタッフ・ピアサポーターの活用のあり方を、一医療機関としての議論に終始せず、地域として支援チームとして、ピアスタッフ・ピアサポーターの価値をどう意識し共有し、どのようにその強みを生かした活用を促していくのかを、精神科医療を含む地域システム全体として検討していくことの重要性に関する知見も得る機会となった。当地域としてのシステムの構築ははじまったばかりではあるが、研究での知見を通じて実装の可能性を探り、さらなる研究に向けた素地を構築できたことは成果の一つと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 種田綾乃, 山口創生, 吉田光爾, 贊川信幸	4. 巻 22
2. 論文標題 利用者の視点からの臨床スタッフのストレンクス志向の支援態度 精神科医療機関を拠点とした多職種アウトリーチチームの介入による影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神障害とリハビリテーション	6. 最初と最後の頁 66-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 水野雅之, 種田綾乃, 澤田宇多子, 相川章子, 濱田由紀, Naoko Yura Yasui, 山口創生	4. 巻 60
2. 論文標題 ピアスタッフとともに働くこととスタッフの支援態度および職場環境との関連 クロスセクショナル調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 773-781
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 種田綾乃, 三宅美智, 山口創生, 内布智之, 藤井千代, 岩崎 香	4. 巻 36
2. 論文標題 ピアスタッフとして働くうえでの研修ニーズ 精神障がい者ピアサポート専門員養成研修受講者に対する質問紙調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本精神科病院協会雑誌	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Mizuno, M., Yamaguchi, S., Taneda, A., Hori, H., Aikawa, A., & Fujii, C	4. 巻 71
2. 論文標題 Development of Japanese version of King's Stigma Scale and its short version: psychometric properties of a self-stigma measure	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 189-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12470. Epub 2016 Dec 18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山口創生, 水野雅之, 種田綾乃, 相田早織, 澤田宇多子, 小川亮, 小塩靖崇, 御園恵将, 濱田由紀, 藤井千代, 相川章子	4. 巻 49
2. 論文標題 障害福祉サービス事業所におけるピアサポーターの有無とアウトカムとの関連: 前向き縦断研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 277-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 種田綾乃, 山口創生, 吉田光爾, 賛川伸幸, 伊藤順一郎	4. 巻 17
2. 論文標題 精神科医療機関における多職種アウトリーチチームに携わるスタッフのストレングス志向による支援態度: 利用者とスタッフの双方の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神奈川県立保健福祉大学誌	6. 最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 山口創生, 種田綾乃, 三宅美智, 御園恵将, 岩崎香
2. 発表標題 ピアサポート養成研修への参加と知識・心理的アウトカムとの関連
3. 学会等名 日本精神保健福祉学会 第7回学術研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 種田綾乃, 松長麻美, 澤田宇多子, 山口創生
2. 発表標題 統合失調症をもつ当事者が「主体的」に生きるうえでの要素とは フォーカスグループインタビューから
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会 第26回東京大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤由美子, 種田綾乃
2. 発表標題 精神科医療機関で働くピアスタッフ・ピアサポーターの語りの場づくり 経験を語り合う中で生まれたもの
3. 学会等名 日本精神障害者リハビリテーション学会 第26回東京大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 種田綾乃, 松谷光太郎, 伊藤順一郎, 福井里江, 岡本和子, 二宮史織
2. 発表標題 SHAREの開発と施行的実施 成果と課題、ピアスタッフの役割
3. 学会等名 日本心理教育・家族教室ネットワーク 第22回研究集会大阪大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 種田綾乃, 濱田由紀, 御園恵将, 相川章子, 荒井浩道
2. 発表標題 障害福祉サービス事業所で働くピアスタッフが経験しているピアサポートの相互作用 フォーカスグループインタビュー調査から
3. 学会等名 第38回日本社会精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 相川章子, 種田綾乃, 佐藤由美子
2. 発表標題 デイケアにおけるピアサポートの可能性
3. 学会等名 平成30年度デイケア学会主催研修会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 種田綾乃, 時田陽介, 柳春海, 櫻田みち子
2. 発表標題 みんなで考える! これからのデイケア リカバリーのために精神科デイケアができること
3. 学会等名 リカバリー全国フォーラム2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 種田綾乃, 山口創生, 相川章子
2. 発表標題 ピアスタッフを雇用する障害福祉サービス事業所におけるピアスタッフおよび共に働くスタッフの支援態度と職場環境
3. 学会等名 第65回日本社会福祉秋季大会 東京大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 種田綾乃, 三宅美智, 山口創生, 藤井千代, 岩崎 香
2. 発表標題 ピアの専門性を活かして働く上での研修ニーズ
3. 学会等名 第25回 精神障害者リハビリテーション学会 久留米大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 御園恵将, 種田綾乃, 濱田由紀, 相川章子, 荒井浩道
2. 発表標題 ピアスタッフとして働く人が経験するピアサポートの相互作用
3. 学会等名 第25回 精神障害者リハビリテーション学会久留米大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 種田綾乃, 御園恵将, 澤田宇多子, 相川章子, 濱田由紀, Naoko Yura Yasui, 山口創生
2. 発表標題 精神保健福祉サービス事業所で働くピアスタッフの業務エフォートと主観的状況との関連
3. 学会等名 日本社会精神医学会 京都大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 種田綾乃
2. 発表標題 スティグマの是正と当事者視点
3. 学会等名 こころのバリアフリー研究会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松谷光太郎、友保快児、種田綾乃
2. 発表標題 SDM（共同意思決定）におけるピアスタッフの役割～利用者の声から～
3. 学会等名 2016年度リカバリー全国フォーラム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 種田綾乃、山口創生
2. 発表標題 精神科医療機関におけるリカバリー志向の共同意思決定システム「SHARE」導入による変化 - 個別インタビューによる利用者の声から -
3. 学会等名 日本社会福祉学会第64回秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大島真弓、松谷光太郎、佐藤由美子、友保快児、種田綾乃
2. 発表標題 精神科デイケアにおいてピアスタッフができること～「ピア活動」と利用者アンケートを通じて見えてきたこと
3. 学会等名 第24回日本精神障害者リハビリテーション学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 種田綾乃、山口創生、水野雅之、濱田由紀、澤田宇多子、相川章子
2. 発表標題 精神保健福祉サービス事業所で働くピアスタッフの勤務実態～ピアスタッフ自身の主観的な状況に着目して
3. 学会等名 第24回日本精神障害者リハビリテーション学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 種田綾乃、佐藤由美子、友保快児、松谷光太郎、大島真弓
2. 発表標題 精神科医療機関のデイケアにおけるピアスタッフ導入に関する利用者の変化とニーズ - 利用者アンケートの声から -
3. 学会等名 第36回日本社会精神医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口創生、種田綾乃、松長麻美、佐々木奈都記、水野雅之、澤田優美子、坂田増弘、福井里江、久永文恵、伊藤順一郎
2. 発表標題 ピアスタッフと協働した共同意思決定システムの効果
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口創生、種田綾乃、相川章子
2. 発表標題 地域福祉サービス事業所におけるピアサポーターの有無によるアウトカムの比較 縦断研究
3. 学会等名 日本精神保健福祉学会 第8回日本精神保健福祉学会 全国学術研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 種田綾乃, 山口創生, 三宅美智, 彼谷哲志, 田中洋平, 栄セツコ, 坂本智代枝, 内布智之, 中田健士, 岩上洋一, 門屋充郎, 岩崎香
2. 発表標題 障害者ピアサポーター養成研修受講者の働くうえでの意識・知識の変化
3. 学会等名 第55回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会・第18回日本精神保健福祉士学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩崎香, 田中洋平, 東海林崇, 坂本智代枝, 栄セツコ, 田中洋平, 山口創生, 種田綾乃, 岩上洋一, 中田健士, 彼谷哲志, 内布智之, 門屋充郎
2. 発表標題 地域での自立生活を支援するピアサポート活動～その現状と課題～
3. 学会等名 第55回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会・第18回日本精神保健福祉士学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 種田綾乃, 佐竹直子, 中田健士, 鈴木江一, 池田直矢, 佐藤由美子
2. 発表標題 みんなで考える！デイケア改革
3. 学会等名 リハビリ全国フォーラム2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤順一郎, 福井里江, 松谷光太郎, 山口創生, 藤田英親, 種田綾乃, 板垣貴志
2. 発表標題 共同意思決定を支援するコンピュータシステムSHAREの開発: その効果と今後への期待
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiyama T, Iwasaki K, Yamaguchi S, Miyamoto Y, Taneda A
2. 発表標題 Development of Peer Supporter Training Programs in Japan
3. 学会等名 WPA XVIII World Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岩崎香編, 秋山浩子・岩上洋一・種田綾乃, 他著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 246
3. 書名 障害ピアサポート	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1) 種田綾乃, 渡部厚子, 深澤信枝, 奈良昌子: 当事者の可能性を高める支援を考える. スクールソーシャルワーク実践研究会, 神奈川, 2016.8.21. (企画・講師)</p> <p>2) 種田綾乃: 「当事者」の力と精神科医療における共同意思決定. 筑波大学精神保健セミナー, 東京, 2016.10.4. (講師)</p> <p>3) 相川章子, 種田綾乃, 宮本有紀: ピアにかける熱い思いシンポジウム. 第1回神奈川ピアまつり!, 神奈川, 2017.6.16. (シンポジスト)</p> <p>4) 種田綾乃, 佐々木理恵: ピアサポート専門員総論. 平成30年度千葉県精神障害者ピアサポート専門員養成研修, 千葉, 2019.1.12. (講師)</p> <p>5) 種田綾乃: ピアスタッフが経験しているピアサポートの相互作用とは. ピアサポートの意義および効果に関する包括的研究班主催 研究報告会, 東京, 2019.3.19. (講師)</p> <p>6) 種田綾乃: ピアサポートの活用について他都市の状況. 福岡市精神保健福祉センター主催 平成30年度精神障がい者ピアスタッフスキルアップ研修会, 福岡, 2019.3.26. (講師)</p> <p>7) 種田綾乃: 「ゲスト講話」「実習心得」. 横浜ピアスタッフ協会主催 ピアマスター講座, 神奈川, 2019.11.17. (講師)</p> <p>8) 種田綾乃, 佐藤由美子: ピアサポート専門員総論. 令和元年度千葉県精神障害者ピアサポート専門員養成研修, 千葉, 2020.1.12. (講師)</p> <p>9) 種田綾乃, 佐藤由美子: 「ピアサポートとは」「ピアサポーターの可能性」「トークセッション: ピアサポーターの魅力について語ろう」. 平塚保健福祉事務所 秦野センター 精神障害者ピアサポーター普及啓発研修, 神奈川, 2020.1.30. (企画・講師・座長)</p> <p>10) 種田綾乃: ピアサポート活動の振り返り. 秦野市地域生活支援促進機構 ピア学習会, 神奈川, 2020.2.20. (講師・ファシリテーター)</p> <p>11) 種田綾乃: ピアサポーターを活かすスキルと仕組み. 精神障がい者ピアサポート専門員養成研修 専門研修, 東京, 2017.11.11, 2018.11.24, 2019.11.9-10. (講師)</p> <p>12) 種田綾乃. (2018). ピアサポート、ピアサポーターとは. 岩崎香編, ピアサポートの活用を促進するための事業者向けガイドライン (p.5-p.7). 社会福祉法人豊心会.</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 由美子 (Sato Yumiko)		